

<研究委員会報告>

道徳資料研究委員会報告

委員長 春日 秀紀

◆研究テーマ 「日頃から自分を見つめ直し、互いを尊重し合える生徒をはぐくむ道徳教育のあり方」

1 更埴道徳教育研究協議会の概要

① 会場及び実施期日 千曲市立更埴西中学校 平成29年10月31日（火）

② 指導者 道徳資料研究委員会世話係 中澤 英治 先生

③ 参観授業 更埴西中学校 2年3組 山崎 直人 教諭

主題名「家族愛、家庭生活の充実」

内容項目：C-(14) 「父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと。」

資料名「夕飯のしたく」

④ 指導者指導の概要

上山田小学校長 中澤英治先生のご指導

○観点1 「発問が登場人物の気持ちを自分のこととして重ねることができる発問となっていたか」について

学習カードより、生徒たちは自分と重ねて共感できていたと思う。更に工夫するなら、資料の「明美さんについてどう思うでしょう。」と聞くより、素直に気持ちを聞いてもよい。資料後半の部分で、「どんな気持ちの変化があって、夕飯を作ろうという気持ちになったか。」と聞いてみたい。本時のどちらの発問も、資料と自分を重ねて考えていた。

○観点2 「付箋に「家族にとって大切なこと」を書き、グループで付箋を見合うことで、友達と意見を交換する中で自分の考えを深め、広めていける活動となっていたか。」について

- ・手立てがとてもよかった。できない自分を語ることはハードルが高いが、付箋の活動は、できない自分を振り返りながら、心の持ち方を書いていた。できない自分を出す必要がなくやりやすい。
- ・「大切にしたいこと」という聞かれ方は漠然としていて書きづらいと思ったが、子どもたちは素晴らしかった。最後に貼られたものを見ると、付箋の活動がよかった。小学生なら、したいことと理由を書かせるが、中学生は自分の思いがしっかり書けていた。
- ・授業の中で深まりや広まりがあった。なぜ感謝の気持ちをもてたと考えたか、情報交換的にできるとよい。議論や対話は途上だが、広さは十分広がっ

た。

2 本年度の委員会活動の成果と課題

- ◆「道徳の教科化」によって、自分ならどのように行動・実践するかを考え、自分とは異なる意見と向かい合い議論する中で、道徳的価値について多面的・多角的に学ぶ道徳の授業、そしてその評価について、本委員会でもさらに研究を深めていきたい。

【平成29年度 委員会構成】

- ◇世話係 中澤 英治（上山田小長）
- ◇委員長 春日 秀紀（更埴西中）
- ◇副委員長 渡辺 宏（東小）
- ◇委員 飯嶋 啓志（南条小） 北川原 勉（村上小）
木内 佳織（五加小） 松本 由美（八幡小）

（更埴西中）